

# Report from the EDGE

ディスレクシア (Dyslexia) とは……………

知的に問題がなく、聴覚、視覚の知覚的機能は正常なのに、読み書きに関して特徴のあるつまずきや学習の困難を示す症状のことをいいます。

EDGE は……………

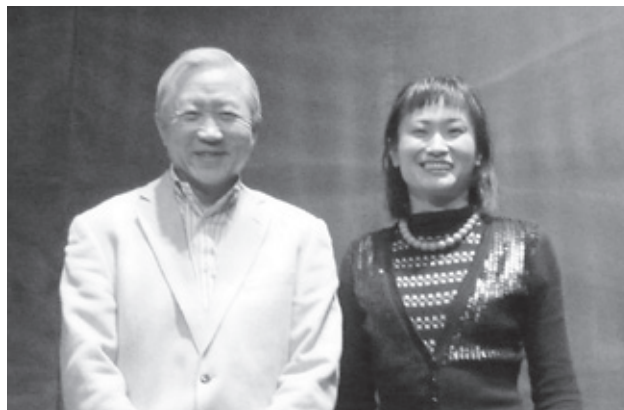
ディスレクシアの正しい認識の普及と教育的な支援を目的とした特定非営利活動法人 (NPO) として、2001年10月に認証・設立され、活動しています。

## 「DXな日々 ～美んちゃんの場合」を制作して

映画監督 谷光 章氏

### Q 映画を作るきっかけはなんですか。

福祉医療機構の助成金による成人ディスレクシア就労事業からです。ワークショップ中、ディスレクシアの人々の話や様子をチビカメで撮影していました。そこから成人ディスレクシアの皆さんの苦しみとか、悩みとか、困りごとの数々を聞かされていました。なんとか、その状況がうまく伝わるように、作りました。ディスレクシアを取り上げたドキュメンタリー映画は日本で初めてだと思います。



左が谷光さん、右が美んちゃん

### Q 過去にディスレクシアをどのくらい理解していましたか。

ディスレクシアを知ったのはマッケンジー・ソープさんからでした。イベントの際、彼は読み書きができないと思っていたら、ファンの皆さんにちゃんとサインをしていました。ディスレクシアの人々が、待ち合わせの時間にちゃんと来られ

ないとか、右と左がすぐに区別ができないとか、私自身も、ときどきあることですからね。どこまでがディスレクシアなのか、わかりませんでした。さらに会社の中で報告書が書けないとか、メモを取るのがたいへんだとか、目撃していないので、正直なところどの程度か、見えませんでした。成人ディスレクシアの人々とつき合う中でいろんな困難に接することができました。

当事者・家族の目線から“生きづらさ”を再考する

### 発達障害は生きづらさをつくりだすのか

現場からの報告と実践のための提言

田中康雄 編著 A5判160頁 定価1,995円(税込)

親・教師が知りたい関わりと工夫のコツが満載の1冊

### 特別支援教育 実践のコツ

発達障害のある子どもの(苦手)を(得意)にする

辻井正次 編著 A5判196頁 定価1,890円(税込)

〒112-0012東京都文京区大塚3-3-7



金子書房

☎ 03-3941-0111(代) FAX 03-3941-0163  
URL <http://www.kanekoshobo.co.jp>

### 目次

- P1 「DXな日々～美んちゃんの場合」を制作して、映画監督 谷光 章氏
- P2 「DX型 ディスレクシアな僕の人生」出版について
- P3 2011年度事業報告と2012年度事業計画
- P4 LSA 講座とテキスト
- P5 エッジのホームページリニューアル
- P6 JDD ネット 第7回年次大会報告／キッズ&ティーンズクラブ冬のイベント
- P7 第39回DX会報告／新聞記事から
- P8 トピック／特別イベント／最近の活動紹介

### Q 撮影中、どのシーンが一番、面白かったですか。

一番印象に残ったのは美んちゃんとお母さんとの会話のシーンです。ご自宅を訪問して、二人の様子を撮らせてもらうつもりでした。最初、お母さんにインタビューをお願いする予定でした。ところが、二人が食事を始めると、会話がドンドン、エスカレートし始めました。これは自然で面白いので、そのまま撮影しました。ご両人の本音の部分が吐露され、心に残りました。もちろん、台本はありませんでした。

### Q ディスレクシアを伝えるのに苦労した点がありましたら教えてください。

実生活で、ディスレクシアな部分を表現するのは難しかったです。私が考える典型的な形が簡単には姿を現しませんでした。映像の中に実際、どのくらい納められたかはわかりません。東京大学の先端科学技術研究センターで、河野先生の検査が、ディスレクシアの人々の困難さを鮮明に伝えるシーンでした。数字で読み書き速度が、小学一年生よりも劣っていることが証明されたのは衝撃的でした。

### Q 撮影後、ディスレクシアの人々に対する印象は変わりましたか。

以前、ディスレクシアの人々はなかなか捕らえにくい存在でした。当事者の方の困りごとが少しずつつかめてきたので、接し方が変わってきました。そして、ひとこと書いてくれと言わないようにしました。事前に文章を用意して、サインだけしてもらうなどの対処方を身につけました。美んちゃんとの撮影中、やり取りはほとんどメールにしました。

### Q この映画をどのような視点で観て欲しいですか。

ディスレクシアの女性の生き方を確認していただきたいが、まったく離れて、一人の女性の生き方として観て欲しい面があります。障害者映画を撮ろうとは思っていませんでした。人それぞれ、いろいろな悩みを抱えています。そんなところを美んちゃんの明るく、前向きな姿を皆さんの生き方に置き換えて、観ていただきたい、と思います。



## 「DX 型 ディスレクシアな僕の人生」出版について

この度、数多くの方々の助けを借りて、私の自筆自伝本を出版する事が出来ました。特にこのきっかけを作って下さった星槎グループの宮澤会長には感謝で一杯です。

宮澤会長より、私の自伝を書いてみないかという話が来たのは2010年初旬でした。以来多忙の為、筆が進まず完成まで、約二年費やす事に成りました。その間、私は日本の某建築設計事務所に勤務をしながら、ディスレクシアを持った社会人として日本の社会を見つめる事が出来ました。そのお陰で、この本は私が教育を受けた英国のディスレクシア教育のみならず、ディスレクシアを持った個人の社会での活躍に関しても網羅する事が出来ました。

この本は、私という波乱万丈の人生を描いたエンターテイメント冒険物語であると同時に、ディ

スレクシアの可能性を示すガイドブックでもあります。この本を通じて生活、教育、人生等のヒントや、私の幸運な環境が誰にとってもアクセス出来るように成れば幸いです。

この本のタイトルになっている「DX型」とは、10人に

1人いると言われるディスレクシアが日本の血液型性格占いのように、特別ではない、当たり前個性として広まって欲しいという願いを込めて付けました。  
(文責：藤堂高直)



# 2011年度事業報告と2012年度事業計画

2011年は港区との事業の大きな転換点になったことと、引越しがあり忙しい年となりました。また、多くの成果が形になってきた年でもありました。

一つは福祉医療機構からの助成金で行ってきた成人したディスレクシアの人の就労についてのワークショップが実を結び、ガイドブックを作ることができたことと、その間追ってきた美んちゃんの記録映画「DX な日々～美んちゃんの場合」としてできたことがあります。

次に藤堂高直君が書いた自伝が主婦の友社から発行されました。この二つの出来事でプレスに取り上げられることも多くありました。外部ではセンター入試で発達障害への配慮がされることとなり、ディスレクシアの人が抱えている読み書きの正確さ、時間がかかるなどの不利な点に対しての配慮がなされるようになりました。2012年は啓発の材料が増えていきますので、より多くの機会を捉えてディスレクシアへの理解を進めていきたいと思えます。

## ☆港区教育委員会からの委託事業

競合2社とのプレゼンテーションの結果、NPO法人エッジが通常学級内の発達障害を持つ児童生徒への学習支援に当たることが決定された。下記の様な内容を実行している。

- 学習支援員の養成講座（2012年度は1月13日から）
- 学習支援員の配置
- 学習支援員のフォローアップ講座
- バックアップ体制（個別支援室）
- 相談員による配置済み学級への訪問

### ▶ 2012年

- 2011年度を踏襲の予定

## ☆港区以外へのLSA講座

星槎グループのテレビ会議システムを活用し、幅広い講師をお願いして行っている。

横浜、宮崎に星槎教育研究所と協力をして開催している。二箇所まで70名近くが受講した。

### ▶ 2012年

川崎、横浜、名古屋などがエッジ方式に近いものを採択し、特に養成事業についてはこのプログラムで行う予定。他に福井、福岡、宮崎、帯広、青森などでも行われる予定。

## ☆啓発活動

数多くの講演、研修にてディスレクシアについての啓発を行っている。

また、福祉医療機構のプロジェクトで成人したディスレクシアの就労について取り組んだ結果、ガイドブックを作成、またドキュメンタリー映画

を谷光さんが作成した。1月28日からポレポレ東中野で上映されるほか横浜、大阪でも上映、各地で自主上映も入り始めた。このことを契機に毎日新聞（その日のテレビでも紹介された）、読売新聞、赤旗などにも掲載されている。8分、5分の縮小版は講演の際に上映して啓発に付している。

藤堂高直の本も12月9日に主婦の友社から出版された。

メルマガ（月1回+号外6回）、ニュースレター（年3回）、ブログ、ラジオ番組（DXステーション）など予定通り発行又は更新している。

日本LD学会やJDDネットで大会企画として選ばれるなど多くの人に啓発の機会があった。

ホームページはNTTデータからの寄付をつかって使い勝手のよいものに変更中。総会でお披露目予定。

▶ 映画、出版、DX会を活用して各地で啓発イベントを仕掛ける。

インド映画「Like stars on earth」、ドキュメンタリー映画「DX な日々～美んちゃんの場合～」、マッケンジー・ソープ氏来日。

## ☆支援活動

地震の影響でキッズ&ティーンズクラブが3月以降開かれず、12月に最後一回だけ開催した。大人のDX会は3月の分を1ヵ月遅れで行ったほかは合宿を含め予定通り、新メンバーも増えている。

▶ キッズ&ティーンズクラブは月一回の開催をする予定、DX会は2ヶ月に一回の予定を踏襲。港区の保健福祉部から成人LDの居場所提供の委託の可能性あり。保護者を立ち上げる。

## ☆ネットワーク

JDD ネット、BDA の国際会議への出席（ポスター発表）、ベルギーに本部のあるディスレクシア・インターナショナルとシンガポールの DAS などと連携。

## ☆教科書の音声化（文科省委託事業）

筑波大学宇野教授と協力して国語の教科書の音声化を行い、音声化することで児童生徒の理解促進が進むのかを検証した。

### ▶2012

音声化した国語教科書とプログラムの使用も推進して行きたいと思います。

## ☆寄付・認定 NPO へ

申請のための要件を検討中。古屋さん（ロータリーの会員でご自身がディスレクシア）から 100 万円のご寄付を頂いた

### ▶2012

申請を出す。総会で了承を受ける。  
寄付を促すような仕組みを作る。

## ☆コンサルタンシー

トライポッドと言う企業を通して商品開発（自動車、テレビ、洗濯機、コピー機など）へ当事

者の意見を反映する事業を DX 会の会員を通して行った。

▶いくつかの企業へアプローチして協働して商品開発、また就労への支援、すでに入っている従業員への支援を考える。

## ☆ホームページリニューアル

フィランソロピー協会の仲介で NTT データからのご寄付で改訂しましたホームページにはディスレクシア初心の方たち用に「ディスレクシアとは」？ というページに飛べるようにしています。また最新のニュースが常にブログからアップデートできるような仕組みにしました。より使いやすいページに衣替えです。

## いくつかのアイデア

◎ジョブコーディネーターの講座

◎音声教科書の活用

◎ディスレクシア研究会とのコラボ

まだまだ、高等学校における配慮や支援が他の部分に比べて弱いので、こころを進めていく所存です。また認定 NPO を目指して申請をしてみたいのでこれまで以上のご支援をよろしくお願い致します。

## LSA 講座とテキスト

LSA（学習支援員）講座は港区で、2004 年から開始しました。今年の 1 月の受講者を含む 280 名近くがすでに港区だけで受講したことになります。同じ考え方で講座を進めているのは名古屋や明石です。2011 年からは星槎教育研究所と協力して宮崎と横浜を皮切りにテレビ会議システムを使つての講座を開始しました。2012 年は川崎や地方都市にも広げていく予定です。

この講座の特徴は発達障害についての概論から、学校のシステムの中での支援の仕方、具体的な支援方法をワークショップも交えて体得することと保護者、成人した当事者、教員などは地元の

方にお話をいただいていることなどです。何よりも支援にあたっている支援員、教職員や保護者、成人した当事者の生の声を聴くことができます。この講座を機にそれぞれの地域でネットワークが作られたケースも多くあります。また支援員のフォローアップ体制なども少しずつですがそれぞれの地域の実情に合わせて進んでいます。

LSA 講座が各地で開催されていく中で、私どもが編纂した学習支援員のためのガイドブック「特別支援教育実践テキスト」能力を引き出し伸ばす支援—通常学級における発達障害の児童生徒への支援ガイドブックを 2009 年 6 月に発行しまし

た。1000冊作りましたが、売り切れましたので、改訂版を2月末で出します。

内容は発達障害についての概論から始まり、理解といろいろな支援の方法、実践的な支援についてNPO法人エッジが行っている講座の内容に沿っています。改定の目玉はカウンセリングマインドの項と支援機器、就労についてなどです。発達障害を取り巻く状況は日に日に変化しています。法律にも明記され、これまでは受けられなかったサービスや配慮なども受けられるようになっていく中での支援はより具体的にできるようになっています。講座が受けられないとしても、支援にあたる方たち、保護者や教員の方たちからも好評をいただいています。

また、ぶどう社から出された「学習支援員のいる教室—通常の学級でナチュラルサポートを」も増刷が決まりましたので、併せてご利用ください。

**読めなくても、  
書けなくても、  
勉強したい**

ディスレクシアの  
オレなりの読み書き

井上 智・賞子 著

本体1800円+税

序文 / 品川裕香



学校で仕事で自分らしさの中で、  
見つけていった読み書きの方法

**ディスレクシア  
でも大丈夫!**

読み書きの困難と  
ステキな可能性

藤堂 栄子 著 本体1600円+税

## エッジのホームページ リニューアル

(2012年2月26日～)

NPO法人エッジには一つのホームページと4つのブログ（エッジオフィシャルブログ、藤堂会長ブログ、Canpan ブログ、音声ブログ）があります。それがお互いにうまくリンクせず、十分に皆さまに情報を提供がされていませんでした。エッジオフィシャルブログは週一回ぐらい更新されています。しかし、ホームページ上では最新の情報が掲示されず、せっかくアクセスしても、たどりつけない方々が多くいらっしゃいました。これはホームページの構造上の問題で、ブログを書く事務局スタッフも歯がゆい気

持ちでした。今回のリニューアルではその反省を踏まえ、エッジオフィシャルブログの情報をそのまま5件、フロントページから見られるようにしてあります。さらに、一番下に3つのブログのバナーを付け探しやすくなりました。音声ブログ（ネットラジオ）はDX会のページからすぐアクセスできるようになっています。ホームページからブログへ、新しい流れが今静かに始まりました。

<http://www.npo-edge.jp> (エッジホームページ)

[http://blog.livedoor.jp/npo\\_edge/](http://blog.livedoor.jp/npo_edge/) (オフィシャルブログ)

<http://blog.canpan.info/npoedge> (canpan ブログ)

<http://blog.canpan.info/edge/> (藤堂会長ブログ)

[http://www.voiceblog.jp/dx\\_station/](http://www.voiceblog.jp/dx_station/) (音声ブログ)



## JDD ネット第7回年次大会 高等教育：入試から学内のサポートまで

昨年度から大学入試センター試験で発達障害の受験生に配慮が行われました。その経緯を東京学芸大学名誉教授の上野一彦教授に解説していただきました。次に明治学院大学の緒方明子教授に明治学院大学で今年から開設された学生サポートセンターの解説をいただきました。そして発達障害の枠で大学入試センター試験を受験したキッズ&ティーンズクラブ出身の小林弘幸君に登壇いただき、司会の藤堂会長からインタビューを受けました。入試までにそろえる書類と認められた配慮は「時間延長、試験問題の拡大、チェック解答、別室受験」でした。(詳しくはニュースレター27号のパーソナルストーリーをお読み下さい。)大

学の授業でノートをとる時間が足りない場合、写真撮影で補っています。自分の特性を理解して、きちんと担当の教員に申し出ていることわかりました。大学側も理解が進んできたようです。その後、成蹊大学の岩田淳子准教授からの指定討論があり、質疑応答をして終わりました。(文責：柴田)



### キッズ&ティーンズクラブ 冬のイベント

#### 「クリスマス会」

事務局・柴田・舘野・LSA 石上

2011/12/17 (土) 14:00～16:00 参加者 10名

デザート班とサンドイッチ班に分かれ、まずはクリスマス会パーティー料理作り。スポンジに生クリームをきれいにのせることに苦戦する場面もありましたが、見事なクリスマスケーキが完成。トッピングを工夫しながら、バラエティー豊富なクレープがたくさん仕上がりました。サンドイッチ班は、マーガリンぬり隊と具を挟み隊にわかれ、思い思いの組み合わせでサンド。そして、試食！ どれもとってもおいしく出来上がりました。



#### 「かるたづくり、かるたとり大会」

講師 柴田

2012/1/7 (土) 9:30～12:30 参加者 4名

まず通常の50音ではなく、個々に自分が作成するかるたの言葉を決めました。「かがみもち」「お正

月」など) 言葉を一字ずつ利用し、その言葉の読み札と絵札を作成。思ったように絵が描けず苦戦する場面もありましたが、皆で意見を出し合い何とか完成。一人ずつ読み手となり、順位は「大人より多く取れた人が勝ち！」(複数)や「一番少なかった人が勝ち！」など、取った後に優勝者が決まるオリジナルルールで楽しいひと時を過ごしました。

(事務局 舘野)



## 第39回 DX 会報告

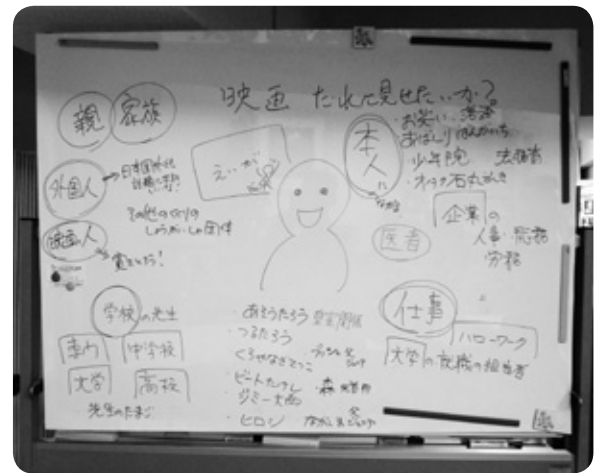
2011年12月18日(日)、男6人、女5人で行われました。最初に自己紹介を兼ね、「幸福とは？」という題でお絵描きをしました。「つまらない話をして、お互いに笑える友人がいること」「眠れること」「飲み食いできること」「自分の意見が認められること」「自然の中で自給自足できること」「紙のリサイクルでいろいろなもの作り、再利用すること」「大自然の中で、夕日を眺めること」「ノルマのない世界に行くこと」、等が出てきました。幸福って、身近にあるものです。

休憩後、ワークショップを行いました。今回は「広報活動の活性化」と題して、「ネットラジオDXステーションをどう改造するか」組と「映画“DXの日々”をだれに見せたいか」組に分け、意見を出し合い、発表しました。

「ラジオ」組から「多くのサイトにリンクして、見つけやすくする」「匿名で有名人にコメントしてもらおう」「海外の人に、それぞれの国でのディ

スレクシアの扱いについて話してもらおう」など出てきました。番組を作っている本人には見えない部分です。

「映画」組から「教育関係者」「就労関係者」「ディスレクシアだと推定される有名人」「父兄」などが出てきました。前向きな意見が出るたびに歓声が上がりました。(文責：柴田)



## 新聞記事から

エッジの活動とディスレクシアが昨年の11月から12月にかけて、新聞の取材を受け、取り上げられました。「発達障害の子と学びたい思い 一人に一人の学習支援員 教師も子どもの対応法を知る」という題で、2011年12月10日、赤旗に港区の学習支援員(LSA)の活躍と効果についての記事が掲載されました。その中でディスレクシアについても触れてありました。ドキュメンタリー映画「DXな日々—美んちゃんの場合—」の主人公砂長美んさんの記事が数回掲載されました。その中にエッジとディスレクシアについて、紙面に載りました。「ディスレクシア 理解して 読み書き困難伴う学習



障害」が2011年11月24日、毎日新聞、朝刊に掲載されました。さらに「しあわせ小箱 DXな日々」が5回シリーズで、2011年12月5日～9日まで読売新聞、夕刊に連載されました。エッジの活動が少しずつ認められてきたのかもしれませんが、藤堂高直さんの著作「DX型 ディスレクシアの人生」が日本教育新聞、共同通信社から取材を受け、各地の地方版に紹介されました。「学習支援員(LSA)制度とディスレクシアがさらに広がることを期待させる力強いマスコミの支援でした。



## 教科書になる iPad

スティーブ・ジョブズ氏が亡くなったのは大きなショックでした。しかし遺志を残してくれてありました。1月19日に大きなニュースが入ってきました。iPadなどで使用するアプリケーションソフト(アプリ)「iBooks2」が無料で提供されることが発表されました。このソフトを使うと自分で独自の教科書を作ることができます。図形、写真、映像を自由に組み込んで、覚えたいところにアンダーラインを引いたり、色やフォントを変えたりして、個人専用のノートも作成できます。ディスレクシアの生徒にとって、ノートをとることが困難です。この苦痛から解放されると、教室の授業に集中しやすくなります。新しい学び方として、広まることを期待します。

## 通常学級の発達障害児の割合、再調査の背景→法改正や通級指導で教育進展

小・中学校の通常学級に6.3%在籍される発達障害児等の割合について、文部科学省は10年ぶりに再調査を行います。前回の調査の時点と違い、障害のある子どもたちの教育は特別の場ではなく、通常学級で広がる等、大きく変化してきました。このような状況の変化に再調査が必要になってきました。10年前と違い、学級担任教員は特別な配慮が必要な生徒が教室にいることを当然と考えています。どの程度の数字になるか、注目されます。(2012年1月16日、日本教育新聞、解説の記事を参考にしました。)

特別  
イベント

## 「ディスレクシアな日々」僕たちの場合

成人した発達障害の人の中でもLD(ディスレクシア)の人たちの置かれている状況と就労に関する啓発を目的とする。

開催日時：2012年2月26日(日) 2時から5時  
開催場所：港区障害保険福祉センターヒューマンぷらざ  
東京都港区芝1丁目8番23号

### ●第一部 映画上映(14:00開演)

ドキュメンタリー映画

「ディスレクシアな日々～美んちゃんの場合」上映81分

見た目には健康で利発な女性が海外の留学経験もあり、料理家やメーキャップアーティストとしての仕事はできるのに、普通の就労をしようとするとうるぐすに退職を余儀なくされてきました。この美んちゃんがビジネスコンテストで準グランプリをとり、起業します。美んちゃんの成長をたんたんドキュメンタリーで撮ったものですが、これを通してディスレクシアの人の日常や仕事における困難さ、それをどう跳ね除けて挑戦してい

くかが伝わります。

### ●第二部 トークショー(16:00～17:00)

「ディスレクシアな日々～僕たちの場合」

美んちゃん他5名(映画に登場)、

司会：榎本達彦(明星大学講師)

コメンテーター：梅永雄二(宇都宮大学教授)

参加費：区民1000円、一般2000円

### ●第三部 「ディスレクシアでも大丈夫」の会

保護者会(17:10～18:30)

ディスレクシアなタロー君と小学生の頃の担任ジロー先生とのトークショー

参加費：一家族1000円簡単な茶菓付き

※同時にミニ絵画展も実施

## 最近の活動紹介

10月22～23日 川越(日本財団)  
11月4～5日 LSA基礎講座@札幌  
11月6日 東京都作業療法士会首都大学シンポジウム  
11月12日 江東区教育委員会 保護者、SC  
11月14日 慶応義塾大学 浅野ゼミ@藤沢  
11月16日 慶応義塾大学 中野ゼミ@日吉  
11月17日 雇用促進「LSAについて」@品川  
11月19日 小児発達障害フォーラム@福井  
12月4日 JDDネット年次大会@成蹊大学  
12月17日 キッズ&ティーンズクラブ：クリスマス会  
12月18日 第39回DX会

2012

1月7日 キッズ&ティーンズクラブ：かるた会  
1月13日～2月3日 2011年度港区LSA(学習支援員)養成講座(24名)  
1月14日 LSA講座基礎@犬山  
2月5日 発達性ディスレクシアの理解と支援～当事者の立場から～@金沢  
2月25日 授業のユニバーサルデザイン@筑波大学附属小学校  
ニュースレター 28発行  
2月26日 エッジ総会、イベント、保護者会  
3月9日 県職員に対するディスレクシア講座@福島



私たちは  
くらしを豊かに、こころを豊かに  
する仕事を通じて 社会・文化に貢献します

「使いやすさ」「見やすさ」「情報」にこだわった  
カレンダー・ダイアリーの企画製造、卸販売を行っています

TD-887 グッドルック・メモ



〒116-0012 東京都荒川区東尾久8-32-1  
TEL 03(6859)1903 FAX 03(6859)1913  
ホームページ www.todan.co.jp  
ネット・ショップ www.tdnetshop.com

## Report from the EDGE - 第28号 -

2012年2月25日発行

発行者 NPO法人EDGE

発行責任者 藤堂栄子  
東京都港区東新橋2-10-2  
中銀新橋マンション206号  
Tel. 03-6240-0670・0672  
Fax. 03-5401-1190

編集 NPO法人EDGE事務局 柴田章弘  
印刷 株式会社 信英堂

http://www.npo-edge.jp  
http://blog.livedoor.jp/npo\_edge/  
E-mail: edgewebinfo@npo-edge.jp